

# 自己教育力を高める 体育の学習指導法

平方部体育研究同好会

レポート

## — 解説 —

本論文は、昭和六十一年度県公立幼稚園・小・中・養護学校教職員研究論文に応募、入選されたものです。いわき市平方部の先生方が、主題に添って熱心に継続研究された優れた内容の論文です。なお、原稿執筆者は、長谷川義翁いわき市立好間第四小学校長です。

## 主 題

どの子ども生き生きと参加し、自己教育力を高める体育学習のために、学習形態をどう組織すればよいか。

## 一、研究の趣旨

すべての授業を子どもの立場からもう一度見直し、運動の楽しさがわかるような「授業づくり」をめざして、昭和五十七年から継続研究を続けて四年目になる。その間、系統表の作成、器械運動における個に応じた指導法、グループ指導のポイントなどを見出し、授業の充実に成果をあげた。今年度は、前年度の評価と反省に立ち、一人一人の自己教育力を高めるための研究に取り組んだ。

## 二、研究内容

児童の実態を分析的、総合的にとらえ、明らかにしたレディネスや反応をもとに学習形態を組織し、その位置づけ方や目標・内容の個別化などについて所期の目的達成に努めた。会員は、各校で望ましい学習形態について実証的に実践研究を進めた。

## 三、研究のための仮説

児童の実態を的確に把握し、運動の特性・人的要因・用具の要因に応じた効果的なグループイングを組織していけば一人一人が生き生きと参加し、自己教育力が高まり、確かな力をつけることができるのではないかと。

## 四、研究実践の概要

- (一) 各運動の技能内容の系統図の作成  
五十七年度からの研究の結果から自己教育力の育成「みがき合う授業づくり」を図るには、教師が運動の特性をとらえ、人的要因・用具の要因の分析から学習形態を考える必要があるため、技術内容の系統図を明らかにした。
- (二) 自己教育力を育成を目指す学習形態  
学習が主体的に行われ、自己教育力を高めるための各学習形態を次のようにとらえ、児童のレディネスに基づき組織することにした。
  - 体育科でねらう「ひとり学習」としての「がんばりカード」の利用。
  - 「めあて別グループ」と「ひとり学習」との相互関連。
  - 自己教育力の育成をめざす学習形態の位置づけと、全体構想の確立。これらのことについて各校で検証授業を行い、累積して実証授業を組織する。

下欄に構想図の一部分を掲載する。

自己教育力高揚にどう生かすか

